

各学年の道徳地区公開講座・専科の様子を紹介します！

1 年生「道徳地区公開講座」



ご参観いただきありがとうございました。1年生の道徳地区公開講座では、自分の良さ、思いやりの心、自然へ親しむ心について考えました。

周囲の人や動植物が、自分たちにとってかけがえのない存在だと再認識し、思いやりの心をもって接することの意義について学びました。また、自分の良さについて振り返ることで、一人一人にはそれぞれよさがあり、大切な存在であることを学びました。

2 年生 道徳公開講座「いのち」「努力」



2年生の道徳地区公開講座では、命の大切さや継続して努力をしていくことについて考えました。

「ぼく」の学習では、大好きな人に会うことも、大好きなことをすることも、自分の命があるからできるのだということを学びました。

「誕生日」の学習では、自分は、たくさんの人に支えられて、ここまで大きくなったことを学びました。

「ぼくは、のび太でした」の学習では、ドラえもんの作者がどのようにして漫画家になったかを知り、継続して努力していことの大切さについて学びました。

3年生 ご参観ありがとうございました。



土曜日は道徳地区公開講座をご参観いただき、ありがとうございました。今回の授業で取り上げたいのちの大切さは、言葉だけではなかなか伝わらないものかもしれません。学校でも、道徳の授業だけでなく様々な場面で振り返ったり、考えさせたりしながら子供たちに伝えたい内容です。自分の命や、家族の命、そして他者の命、すべてかけがえのない命です。その命を、どう輝かせ、どのように生きていくのか、ご家庭でも話題にしていただけたら幸いです。

4年生 道徳授業公開講座「走れ江ノ電 光の中へ」

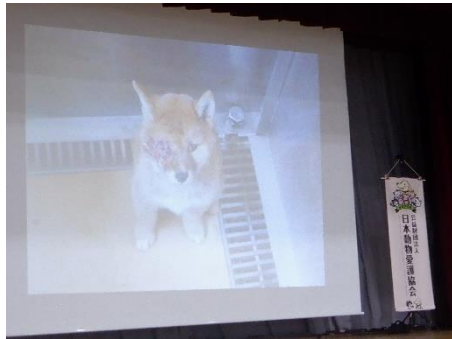


4年生は、「走れ江ノ電 光の中へ」という教材から、「命の大切さ」について考える授業を行いました。

生まれもって心臓の病気をもっていた「とも君」。電車が好きで、将来の夢は「江ノ電の運転手」でした。しかし成長とともに次第に重くなる病気に、家族をはじめ病院の先生など多くの人が、夢の実現に協力してくれます。それから4日後、「とも君」はこの世を去りました。

授業終末では、「両親が生んでくれた命だから、大切にしなければいけない」「遊びでも『死ね』などということをしてはいけないと改めて思った」などと振り返る様子があり、尊い命について真剣に考えることができたようです。

5年生「命の授業」



5、6年生は、児童文学作家の今西乃子先生の動物の殺処分に関する「命の授業」を受けました。身勝手な人間の都合で多くの動物が殺処分をされていることや、飼い主から酷い虐待を受けていることを今西先生の実体験を交えてお話いただきました。児童は殺処分の問題を自分事として捉え、真剣な眼差しで講演を聞いていました。講演後の感想では、「辛い現実から目を背けるのではなく、誰かを助けるために自分にできることを探して行動していきたい。」と振り返る姿が見られ、よりよい未来を築いていこうとする意欲の高まりを感じました。

6年生「命の授業からの学び」



「動物の命を大切にしていきたい」
 「全ての命を平等に大切にしたい幸せを願える人になりたい」
 「犬や猫は自由でいいなと思っていたけど、そうではない犬や猫が多くいると知って、自分も何かしたいと思った」
 「どんな命も幸せになれる、生きている命ならば幸せになるべきだと思った」
 「自分も大人になったら保護犬や保護猫の飼い主を探すボランティアをしたいと思った。」

今西乃子先生の講演に参加した子供たちの感想です。命を自分事として捉え、命に対する考え方が深まりました。また、自分のことを振り返る中で、過去の自分、現在の自分、そして未来の自分に思いを馳せる姿も見られました。

これからも自分のことを見つめ、振り返る活動を大切にしていきたいと思います。

音楽科 4年生「日本の楽器に親しもう」



4年生の音楽科では、「さくらさくら」（日本古曲）を、箏で演奏しました。箏爪で糸をはじいてきれいな音を出すのはなかなか難しいですが、一音一音ていねいに響かせて、平調子の旋律の美しさを味わうことができるように指導しました。